

思いをつなぐ いのちをつなぐ

t s u n a g u

つなぐ

3.11 を忘れない
今、わたしたちにできること

Vol. 12

2016年4月10日発行

つなげよう脱原発の輪

上越の会 会報

発行責任者：植木史将

3.15 4度目の県知事申入れ

(泉田知事宛「柏崎刈羽原発の再稼働に反対し、廃炉をもとめる」署名)



要望書を手渡す「廃炉を求める会」発起人 植木代表(左)

原発事故避難計画、県指針の根本的見直しを要望

今回の質疑応答で、県のズサンさが判明…。国任せ、福島検証せず作られた被曝を防げない避難計画指針。(詳細は次ページで)



(署名の向こう側4人は県担当者)

当会含む「柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉を求める会(署名賛同団体は22団体)」は、3月15日、県知事署名中間5次締切に伴い、63,259筆の署名用紙を新潟県庁に持参。泉田知事に対し、集約報告と署名要望項目の「柏刈原発再稼働反対・廃炉、再エネで雇用を」を改めて要望。あわせて、「原発事故避難計画指針に対する質問と要望」をメインに、8月の最終締切・提出の際には泉田知事の出席なども求めました。(対応は、新潟県原子力安全広報監 市川氏ほか)



63,259筆の署名を提示(22団体合計)

(当会の集めた署名は、手前二つ目と三つ目の山で、計17,507筆)

最終締切日は2016年7月31日です!

翌8月には泉田知事への手渡しを目指しています。賛同団体22団体の目標10万筆まであと約37,000筆。当会単独では2万筆目標であと2,493筆です。引き続き署名集めにご協力ください。

県知事署名集めに奮闘して下さっている

田村さんの体験談

「もう何十年も会っていないけれど、年賀状だけはやりとりしている親戚や友人にも署名用紙を送って、その知り合いがまた何枚もの署名を集めてくれて、千名近くになりました。」
「当会賛同人の方達にもそこまでして欲しい。」とも。

「年賀状署名」

ぜひ皆さんもやってみてください!!

いま作られている『原発事故避難計画』はどのようなものか？

新潟県の回答 (2016.3.15 当会含む「廃炉を求める会」知事申入れにて。対応者は県原子力安全広報監 市川氏ほか。)

Q. 福島汚染状況、被ばく状況の検証は？

A. まだできていない。

Q. パニックを想定しているか？

A. していない。

Q. 避難計画の指針において、どこが汚染され、どこが安全か想定しているか？

A. わからない。

Q. 30 キロ圏外の県内全域の避難計画の指針はどうなっているか？

A. 未定。

Q. 避難開始基準の根拠は？(500 マイクロシーベルト毎時で即時避難。20 マイクロシーベルト毎時で一時避難。)

A. わからない。国に問い合わせたが、国もわかっていない。

泉田知事と新潟県は、再稼働議論の前提となる「福島の事故原因の検証」は進めていますが、避難計画策定の前提となる「福島の汚染・被曝の検証」は進めていません。無責任な国の指示に従って避難計画の指針を作っており、当然のことながら、被曝を防ぎ、命を守るものになっていないことが、今回の申し入れではっきりとしました。

上越市の回答 (2016.3.2 当会申入れにて。対応者は市民安全課防災対策室 室長今井氏ほか。)

※上越市は、県の指針に従って、30 キロ圏内周辺自治体として初となる避難計画を2015年9月に策定。

Q. 避難先が原発から30.7 キロのところなどもあります。遠く離れた50キロ超の場所に避難すべきでは？

A. 原発から60キロも、30.7キロも安全性は同じと考える。

Q. 市内の30キロ圏外の避難計画がない。どうするか？

A. 具体的に考えていない。

Q. 国の指示の通りに策定して安全が確保できるのか？

A. 市では限界。国や県に頼るしかない。

Q. この計画では被曝を防げないのでは？

A. 被曝の定義があいまいなので、答えられない。

上越市は原発から30キロを数百メートルでも超えれば安全性が高まると考えている。50キロ60キロ超が深刻な汚染に見まわれた福島を知らないし知ろうとしていない。国の指示、県の指示を守ろうとし、上越市民の命を守ろうとしていないことが、この申し入れではっきりとしました。

原発事故避難計画について、見落としてはいけない事があります。

「避難計画は自治体(県、市町村)任せ」という新聞やテレビの報道があります。しかし、上記のとおり、自治体には任されておらず、国の指示に従って避難計画は作られています。国は指示を出しているが、その責任を取らないことは許されません。これについての追及もしっかりと行っていきましょう。

なかなか思うように外遊びをさせてあげられない中、震災から四年半経った今でも支援くださり、ありがとうございます。福島に住み続けている以上、少しでも線量を低くしたく、出かけられる時には保養に出ています。

今回このような機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。子供達の健康被害がないように、食事や外遊びなど毎日気をつけています。あれだめ、これダメだと息もつまります。この週末は子供達も親ものびのび過ごせました。ストレスフリーでした。ほんとうに楽しかったです。妙高では、子ども達は朝ごはんの後すぐに、外で遊んでもいい?と聞くなり、風の様に外に出てボールでその日始めて会った子ども遊んでいました。

日中は戸隠忍者村で、これでもか!というくらいアスレチックをひたすら回っていました。アスレチック三周位したと思います。お友達と来られて楽しかったのでしょうね。ひたすら走り回って登り下りをしたり、アスレ

チックを楽しんでいました。こんなに遊べただけでも来た甲斐がありました(^O^)

翌日は生憎の雨でした。天気が良ければ長岡の国営公園あたりで遊ぼうと思っていたのですが、帰りに新潟で普段あまり食べられない安心して食べられる日本海の魚をたくさん回転寿しで食べることができて子どもたちが大喜びでした。野菜も新潟産をたくさん買って満足です。

いつまでこういったストレスを抱えて生活していくのかまったく見通しが解りませんが、もし、将来何か放射能由来の病気になったとしたら、あの時こうしてればよかったと後悔だけはしたくないので、今やれることをまだまだ続けていくつもりです。もちろん健康被害がないのが一番ですけれど。

みなさんのお陰で本当にリフレッシュできました。ありがとうございました。

勉強会レポート (山岸祐子)

◆1-16 迫る再稼働? 柏崎刈羽原発は動かしてはならない

講師:新潟大学名誉教授 立石雅昭さん

なぜ動かしてはならないのか

1.異常に厚い新世代の地層の上に立っている

解放基盤面(原発敷地において一定以上の固さをもつ地中の地盤の上部を仮想的にはぎとった表面)の深さ

柏崎刈羽原発 146~290m

福島第1原発 180~208m

他の原発は 10~30m

2.大きな地震動が襲来.中越沖地震で立証

柏崎刈羽原発 基準地震動 Ss 2300ガル(1~4号機)

1209ガル(5~7号機)

福島第1原発 600ガル

浜岡原発 1200~2000ガル

3.敷地内に膨大な地下水が流入

1日の流入量

柏崎刈羽原発 3300m³

福島第1原発 400m³

◆12-23 オンカク報告会

講師:立石由美さん

オンカク:世界で唯一の高レベル放射性廃棄物の最終処分場

・所在地:スカンジナビア半島東部 オカキルオト島にある約19億年前地中深くマグマがゆっくり冷却固結した硬い花崗岩や変成岩からなる

さらに12億年前の輝緑岩が貫いている

『この時代の岩石は 日本では存在しない』

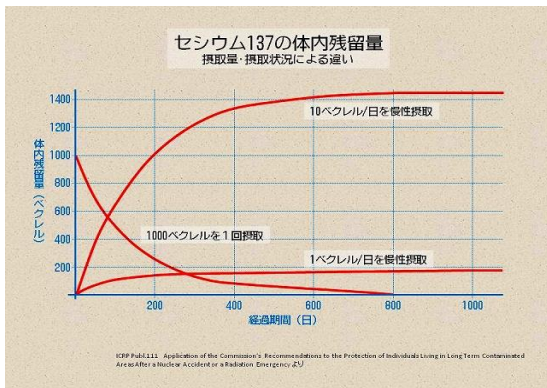
・地下およそ 520mの深さまで縦穴を掘り、そこから横穴を広げ2800の洞穴に貯蔵。

・2020年までに運用を開始し、100年後に施設が満杯になった後、道を埋めて完全に封鎖する。

・使用済み核燃料に含まれるプルトニウムの半減期は2万4000年。生物にとって安全なレベルまで放射能が下がるのは、10万年後

・地震のない強固な地盤でも1年に6mm³隆起 6mm³×10万年=600,000mm³⇒600m³⇒0.6km³..

内部被曝から守るために（第7回） 10ベクレルの食品を摂取し続けると…



ICRP（国際放射線防護委員会）「原子力事故または放射線緊急事態後の長期汚染地域に住む人々の防護についての報告書」の図2.2『摂取量・摂取状況の違いによるセシウム137の体内蓄積量』

1,000 ベクレル (Bq) のセシウム137を一度に摂取した場合、毎日1ベクレルまたは10ベクレルのセシウムをそれぞれ1000日間摂取した場合の全身放射能の変化です。

日本の食品暫定基準は一般食品100ベクレル/kg、飲料水は10ベクレル/kg。1,000ベクレルの食品が出回ることはないかもしれませんが、後は各自のご判断を。

過去の「つなぐ」に内部被曝から身を守る記事があります。参考にしてください。(山岸祐子)

《 活動報告 》

◆1.19 問題だらけの「原発事故避難計画」勉強会

【日時】1月19日(火) 19:00~21:00

【会場】上越市市民プラザ 第6会議室

【内容】上越市策定の避難計画の検討。

◎22項目も問題が上がりました。①町内会の避難訓練に原発事故を加え、市と町内会の連携、全市への周知徹底を求める。②一時避難所の駐車、交通渋滞、の予測を質問。の二点を中心に、的を絞って要望書を作り、3月2日に上越市へ申入れを行いました。

◆2.7 レルヒ祭署名（街頭県知事署名）

【日時】2月7日(日) 午前9:30~12:00

【会場】高田駅前周辺

◎レルヒ祭に合わせシャトルバスの出発する高田駅周辺で県知事宛「柏崎・刈羽原発再稼働反対廃炉」署名の呼び掛けを行いました。人通りは少なかったのですが、沢山の方が署名に応じて下さいました。85筆獲得。



私の思い



「分断」

鳴谷玉実（農家）

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故から5年が経過しました。これまで原発に無意識であった私ですが、福一の事故と、柏崎刈羽原発の30キロ圏内にある上越市吉川区の農家に昨年嫁いできたことで、原発問題を自分のこととして考えるようになりました。

なぜ私は原発に反対するのか。一言でいうならば、分断を引き起こすからでしょうか。放射性物質が漏れたときの遺伝子レベルでの分断はもちろんのこと、家族や地域の中でも、事故があった時に避難する人、留まる人、原発立地地域の食品を食べる人、食べない人、原発によって利する人、そうではない人と、原発が地域にあることにより、人間関係が分断され、地域社会も分断されるように思います。

農業はその土地に根差した職業のため、一度環境が汚染されると営農できなくなります。さらに自分一人で農業をしているのではなく、用水や農道を地域の他の農家と管理することで初めて自分の農業が成り立ちます。ですので、地域が分断されてしまうと暮らしそのものが成り立ちません。

原発に依存する社会から、そうではない社会へ。自分にできることを考え、取り組んでいきたいといます。

♥つなげよう脱原発の輪 上越の会

代表：植木史将（090-4962-9633）



始めました。

フェイスブックはじめました。イベント情報・原発に関するホットな情報を投稿します。「いいね」よろしくおねがいします(^_^)v

カンパ募集中です

当会は会の趣旨にご賛同いただける皆様からのカンパで運営されています。ご協力よろしくお願い致します。

ゆうちょ銀行から…11260-13169471

名義：つなげよう脱原発の輪 上越の会

ゆうちょ銀行以外から…ゆうちょ銀行・仔口(一二八)・普通預金・1316947

名義：つなげよう脱原発の輪 上越の会

◆◆編集後記◆◆

▼被曝を防ぎ、命を守り、故郷を守るために、私は脱原発を訴えています。既に被曝をしてしまっている人たちの、さらなる被曝を防ぐためにできることの大きな一つが「保養」です。もっと「保養」のための取り組みにも力を注ぎたいと思う今日この頃です。(F.U)